

JELA NEWS

ジェラニュース 第66号

2025年4月15日 発行

発行責任者 渡辺 薫

公益財団法人 JELA 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 TEL.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援事業 / 世界の子ども支援事業 / 奉仕者育成事業 / 緊急災害支援事業

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(マタイによる福音書25章35～36、40節)



小学校の建て替えを心待ちにする カンボジアの子どもたち

世界の子ども支援

カンボジアのパートナーLHCOとともに 日本政府の援助で小学校の建て替えを (P2-3)

難民支援

「難民奨学生のつどい2025」に全国から43名! (P4) / JELAの難民奨学金 (P4) / 難民との交流会&日本語ワークショップ「難民支援DAY」開催! (P5) / JELAハウス住人のクリスマス会を開催 (P5)

奉仕者育成

hi-b.a.との初コラボ! 冬のワークキャンプに全国から38人が参加! (P6-7)

その他の記事

ご遺贈を永遠に「アガペー基金」を設立 (P3) / 2024年度寄付金&活動ご報告 (P8) / 支援者一覧(P8) / 編集後記(P8)

CONTENTS

カンボジアのパートナーLHCOとともに 日本政府の援助を受けて老朽化した小学校の建て替えを



JELAのカンボジアにおける世界の子ども支援事業パートナー「Lutheran Hope Cambodia Organization」（ルーテル・ホープ・カンボジア・オーガニゼーション=LHCO）が、日本政府による開発途上国支援の一つ「草の根・人間の安全保障無償資金協力」（草の根無償）を受けて、同国ポーサット州の農村地域の老朽化した小学校の建て替えを行うことになりました。

1月24日には、在カンボジア日本大使館のホールを会場に「令和6年度草の根・人間の安全保障無償資金協力の署名式典」が開かれました。

当式典において、植野篤志駐カンボジア日本国特命全権大使とLHCOのタイ・ボネ事務局長が「ポーサット州ブノンクラバン郡クルトタウン小学校校舎建設計画」への資金提供契約書に署名しました。

植野大使からは、「小学校の校舎建築が、よりよい教育環境の整備につながることを願います」と当プロジェクトに対する期待が語られました。

署名式典には、これまでクルトタウン小学校校舎建設計画の申請に携わってきたJELAのローウェル・グリテベック理事と奈良部慎平事務長が出席しました。



植野大使(右)にプロジェクトを説明するタイ・ボネLHCO事務局長

日本政府からクルトタウン小学校校舎建設計画への助成金額は、92,191米ドル（約1,382万円相当、1ドル150円換算）となります。新校舎プロジェクトでは校舎（6つの教室）の建築のほか、5つの個室トイレや洗面台、教室の備品も整備されます。

当プロジェクトは、LHCOとJELAが農村地域に質の高い教育と安全な学習環境を提供することを目的として

2022年から計画してきました。

申請に携わったグリテベック理事は、「現在の小学校は木造の古い校舎でシロアリの被害を受けていて基礎が弱くなっています。天井にも穴が空いていて雨天時の授業に悪影響が出ていました。今回、草の根無償で助成していただけることになり、小学校はコンクリートの丈夫な校舎に生まれ変わります。不足していた教室数の問題も解消し、同地の子どもたちを取り巻く教育環境は一変します。日本政府には心から感謝します」と語っています。

JELAは、今後もLHCOと協力して、クルトタウン小学校の新校舎が完成するまで定期的に現地を訪問し、プロジェクトを見守るとともに、小学校の敷地内にプレスクール（小学校へ入学する前の子どもが通う幼稚園）を建設し、同地域子どもたちを取り巻く教育環境を整備していきます。

皆様からのご支援は、カンボジアの子どもたちの教材や絵本の購入に用いさせていただきます。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



建て替え予定の小学校校舎



視察の様子



子どもたちも楽しみにしています

ご遺贈を永遠に「アガペー基金」 運用益のみをJELAの公益目的事業に用います

2014年に約3,000万円のご遺贈をお受けして以来、どのような使い方が故人のご遺志に合うのか、JELAは慎重に協議と準備を重ねてきました。この度、ご遺贈下さった方の思いが永久的に次世代に受け継がれ用いられていくことを願って、JELAはこの3,000万円を原資とした「アガペー基金」を設立しました。アガペー基金は債権などの安全資産と株式等で構成する投資有価証券で慎重に運用されます。運用益という果実をJELAの公益目的事業にもたらしつつ、運用益を超えて元本を取り崩すことのない使用方法によって、ご遺贈下さる方のご遺志が、将来に渡って多くの助けを必要とする方々に行き届くこととなります。

アガペー基金設立準備時に、すでに数名の方からのご遺贈をお受けいたしました。前年度は約10%の運用益を生みましたが、ガイドラインで決めた3%（100万円を上限）を2025年度の公益目的事業に用いさせていただきます。

どの事業に用いるかについて、前年度において各事業委員会や理事会でアイデアを協議し、最も相応しいと考えられる用途を理事会で決定します。

初めての使用年度となる今年は、奉仕者育成事業ボランティア派遣委員会の提案が採用され、児童養護施

設の子どもたちの海外ワークキャンプ参加を支援するため（3名分）にアガペー基金の果実が用いられることになりました。決定にいたるまで、難民シェルターの勉強スペース増築、新規支援国の視察などの秀逸なアイデアが多数テーブルに上がりました。回数を重ねることで、より多くのアイデアが出され、JELAの公益目的事業がより活性化されることが期待されます。

JELAへのご遺贈は、キリストの愛とともに皆さまの思いを後世に届けます。いま、ご遺贈を考えていらっしゃるなら、ぜひ、JELAのアガペー基金をお選びください。永遠に残る皆様の愛を、日本と世界の助けを必要としている人々にお届けいたします。



2024年米国ワークキャンプ



ご遺贈に関するお問い合わせ先
公益財団法人JELA アガペー基金係
電話 03-3447-1521
メール jela@jela.or.jp

「難民奨学生のつどい2025」に全国から43名! 三菱電機 春名正樹氏による特別講演とロボットによる交流会も

JELAは、難民支援事業として難民の方に給付型（返済不要）の奨学金を提供しています。3月1日に4月から奨学生となる方や現在奨学金を受給中の方などを全国からお招きして、「難民奨学生のつどい2025」を開催しました。

催しには、奨学生18名と難民支援でJELAと協力関係にある国連機関や団体・組織の方々もご出席くださいました。新奨学生7名に古屋四朗理事長から奨学生認定証が授与され、来場者43名からは祝福の拍手が送られました。



奨学生認定証授与式

現在、JELAの難民奨学生は様々な分野で学んでいます。医師、看護師、介護士などの医療分野、教師、調理師、理容師、中でもIT、WEBデザイン、システム・エンジニア、工学系などの情報処理関連の分野は人気です。

常日頃から、JELAでは奨学生の皆さんに学業の応援以上の何かを提供できないかと考えられてきました。そんな中、三菱電機株式会社 先端技術総合研究所でロボット開発をしているエンジニア、春名正樹氏との出会いがあり、今回のイベントで特別講演会を行っていただくこととなりました。JELAの難民奨学生が学んでいる分野は一



講演を行う春名氏

見ると様々ですが、「ロボットとの共生」という発想を得たからです。例えば医療介護では、手術ロボット、介護補助ロボット、飲食関係では給仕ロボット、すしロボット、カクテルを作るロボットなどが活躍しています。

春名氏の特別講演に続き、遠隔操作ロボット（Maru-to）を使って一時帰国しているウクライナの奨学生と会場を繋ぎ、握手や会話をする交流会を実施しました。東京とウクライナは直線距離で約8,200km離れており、3月1日時点における同遠隔操作ロボットの最長記録となりました。奨学生らは、ロボット工学による先端技術と国際貢献の深いつながりへの熱い思いを語る春名氏の話に聞き入っていました。基調講演で受けた感動はその後の懇親会にも伝播し、奨学生も支援者も互いの夢や計画などの話題が尽きない、余韻の残る会となりました。



ウクライナから操作されているロボットと握手



懇親会の様子

JELAの難民奨学金

JELAは、日本に住む難民のために、2種類の奨学金を提供しています。

◆難民専門学校教育プログラム(RVEP)

対象：専門学校進学を志望する認定難民等

金額：年間最大120万円

※当プログラムは、UNHCR駐日事務所、公益財団法人ウェスレー財団と共同で実施しています。

◆JELAフィロクセニア奨学金

対象：大学等への進学を志望する難民等

金額：年間最大120万円

いずれも今年4月にJELAウェブサイトにて募集開始します。

向学心・自立心のある方々を応援します。ぜひご応募ください!

難民との交流会 & 日本語ワークショップ「難民支援DAY」開催!

2月1日、JELAは、三菱UFJ信託銀行株式会社様と共に「難民支援DAY」(難民との交流イベント)を開催しました。三菱UFJ信託銀行の社員有志の方9名とJELAの難民シェルター「JELAハウス」に住む難民の方々14名(乳幼児3名を含む)がJELAに集い、初級の日本語レッスンを通して交流しました。

日本語レッスンでは、社員有志と難民の方がほぼ一対一で、日本語の朝昼晩のあいさつ、日本の文字、数字の読み方、紙幣や硬貨の数え方などのレッスンの時間を持ち、レッスンの

最後には、難民各自が自分の名前をきれいな形のカタカナで書けるようになりました。金融機関の社員有志ということもあり、紙幣や硬貨の数え方は非常に丁寧で、難民の方も真剣に学んでいました。

企業から社員有志の方を迎えてのボランティアイベントはJELAにとって初めての試みとなる大変貴重な機会でした。三菱UFJ信託銀行の社員有志の皆様、ご参加を有難うございました!

社員有志の皆様からの感想

難民支援DAYを開催いただきありがとうございました。様々な理由で故郷を追われる方が増加する世界で、日本に来てくださった方との交流ができ大変光栄でした。少しでも皆さんの日本での生活に彩りが届けられた1日になっていたら嬉しいです。

人見知りしてしまう私が、日本語を難民の方に教えるということが出来るのか、不安でした。しかしいざやってみると、皆様が真剣に取り組まれている姿に引っ張られ、緊張などではなくワークショップに夢中になりました。難民の皆様の真剣な姿が、自分も頑張らなければと活力を与えて下さりました。ありがとうございました。

ワークショップについて、皆さん前向きに取り組まれていることが印象的でした。慣れない環境で、大変なことも多い中でも、笑顔で勉強に励まれている姿に心打たれました。自分自身にできることは限られていますが、少しでも社会に貢献できる活動をしていきたいという気持ちが強くなりました。

皆さんの学ぼうとする熱心な姿に心が打たれました。本当はご苦勞も多いと思いますが、明るく前向きな姿勢を当方が学ばせて頂いた感覚です。また日本は素晴らしい国と仰って頂きました。自分の日常生活を感謝し、少しでも社会に貢献できる人になりたいと思います。

「少しでも難民の皆さんのお役に立ちたい!」との想いで参加致しましたが、難民の皆さんの明るさと熱心さに感動致しました。私の方が元気を頂き、自身の世界が広がりました。貴重な機会を頂き、ありがとうございました。



ワークショップ、最初は「お役に立てるのか?」と思っていたが、難民の皆さんが覚えようと努力する姿に引き込まれ、いつの間にか熱の入った自分の姿が。皆さんの熱心な姿、こちらが得るものが多く、とても勉強になりました。

難民の方々の熱心さや前向きな姿勢に深く感銘を受けました。新しい環境で懸命に努力される姿を目の当たりにし、自分ももっと社会の役に立てるよう行動したいと強く感じました。貴重な経験をありがとうございました。

難民の方々の語学習得等への熱心な姿に引っ張られ、あっという間に時間がたってしまいました。このような貴重な機会をいただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。

難民のため住居や奨学金を提供する活動団体の支援が難民の自立を促進し、日本社会で活躍する人材の創出へ繋がっていると感じました。弊社の活動支援が、難民の方々が日本で自立した生活を送るための一助となれば嬉しいです。

JELAハウス住人のクリスマス会を開催

毎年12月に開催されるJELAハウス入居者のためのクリスマス会は、都内2カ所にあるJELAハウスの入居者とJELA支援者が交流できる数少ないイベントの一つです。昨年12月20日に開催されたクリスマス会には、居住中の方々だけでなく、退去後の方、日本語教育ボランティアの先生方、シェルター管理人などの皆さんが参加してく

ださり、計27名の賑やかで温かな雰囲気の会となりました。難民の方々は故郷の音楽でダンスや歌を楽しみました。

支援者の方々からご寄贈いただいた衣類や食品は参加した難民へのプレゼントとなりました。参加者がそれぞれの母語で歌う「きよしこの夜」が、会場に集うすべての人の平和を願う心と重なりました。





hi-b.a.との初コラボ！ 冬のワークキャンプに 全国から38人が参加！

JELAは、高校生のためのキリスト教伝道団体「高校生聖書伝道協会」(hi-b.a.)と共に2024年12月26～28日の2泊3日の日程でhi-b.a.キャンプ場(千葉県長生郡一宮町)を会場にワークキャンプを開催しました。キャンプには全国から38人が参加しました。

hi-b.a.が、1950年代建設の九十九里浜に近いキャンプ場の建て替え準備を進めるなか、「高校生たちに、神様のために、また、顔を見たこともない次世代の高校生たちのために働く価値を知って欲しい」という

hi-b.a.の思いにJELAが共鳴し、畳の搬出、備品の整理、不用品の処分など高校生が行える内容のワークキャンプをJELAとhi-b.a.が共同で企画することとなりました。

ワークやバーベキューなどのイベントだけでなく、聖書の学びを通して、参加者全員が「奉仕すること/他者に貢献すること」について考える、実り多きキャンプとなりました。キャンプ参加者の感想を掲載します。(原稿内の学年はキャンプ参加当時のもの)

市野川 沙来(高1)

このキャンプを通して、「今変わりたい」という神様からのメッセージを受け取った気がします。「愛をもって神と人とに仕える」というメッセージを聞く中で、自分が利己的な思いや虚栄心を持っている者であることを痛感し、「今変わらない」と思いました。みんなとする賛美や奉仕が楽しかったです。日常に戻っても、神と人とに奉仕することを大切にして生きていきたいです。



菊地のゆり(高3)

私はこのキャンプで他人を愛するというミッションを与えられました。クリスチャンホームで育ったので「互いに愛し合いなさい」というみことばは何度も聞きましたが、家族や友達を自分が愛しても相手から同じように返ってくるわけではないため、結局一方的だから難しいと感じていました。夜の集会メッセージでこのことを考えさせられ、神様は反抗してしまう私を一方的でも無条件に愛してくださっているのに自分は他人を愛することができていないということに気づかされました。hi-b.a.のワークキャンプは3度目ですが、高校生メインでやるのは初めてで、新しいキャンプ場のために一人ひとりが集まって奉仕し、賛美する恵みを感謝します。



もともと、受験が終わらなかつたら来られなかつたので、来られただけでも恵みだと思います。

澤村千恵(高1)

「奉仕」についてたくさんのことを考えさせられました。今まで、神様のために働きたいという気持ちはあったけれど、毎回ではないし、奉仕が辛くて教会に行きたくなくなった時もありました。けれどこのキャンプで神様の愛の大きさについて知ったので、はじめて心から、愛の中に奉仕をしたいと思いました。たくさんワークをして、JELAの人たちともたくさん話して、楽しい3日間でした。



伊藤 紗羅(高1)

初参加だったので不安なことが多かったけれど、皆さんののおかげで楽しい時間を過ごせました。ワークはとても大変で疲れましたが、そのおかげで日々どれほど周りから支えてもらっているかということや奉仕する大変さを学びました。これからも進んで奉仕をしようと思いました。



清水希実(高2)

前回参加したキャンプで伝道の決心に導かれ、それから、神様の声を求める中で沢山の恵みをいただきました。その恵みのお返しをしたい気持ちが強くなり、たくさん奉仕をしながらも、様々な奉仕が中途半端になってしまう自分に苛立ちを感じていました。



そんな中で参加したキャンプだったので、最初は気乗りしていませんでしたが、他の人たちと細かい作業から、大きな作業まで協力して行うことができたことに喜びを感じ、周りの人から愛を受け取りました。

集会の賛美の中で、「そのままのあなたでいいんだよ」と語られた気がして、心の中が平安で満たされ、泣きそうになりました。

中島リーア(高1)

最初はワークキャンプ大変そうだなと思っていましたが、実際来てみたらとても楽しく、奉仕の本当の意味を実感することができました。



奉仕と良い行いの違いを学び、自分は家族に誇りに思ってもらうために教会の奉仕をしていたことを思い出しました。でも、今は神様に仕えたいという思いで、教会で賛美奉仕をしているので、これからも神様に捧げる思いでしていきたいです。

宮崎かりす(高3)

いつものキャンプとは違う初めてのワークキャンプで、大掛かりの作業も多かったですが、仲間と一緒にやることで楽しい時間に変わることを実感しました。



今回のキャンプを通して、行動だけの奉仕ではなく、心からの奉仕の大切さをすごく考えさせられました。見返りを求めて奉仕をしてしまっていた自分に気づかされました。しかし同時に、何も求めずに、全てを捨ててまで私を救ってくれた神様の愛の偉大さを感じることができました。

その愛への感謝を持って、奉仕をする者へと変えられていきたいです。

推久保翠(高1)

キャンプは初めてでしたが、学んだことがたくさんありました。



その中でも「本当の奉仕とは」ということを特に考えさせられました。初日ディスカッションの中で、神様のために心からすることなら、勉強や日常生活のことで奉仕になるのではないかと思います、これからは心から神様のために捧げられるようになりたいと思いました。

小野義輝(高2)

自分が受けた恵みを還元することを学びました。



これまで、受けた恵みを忘れがちである一方で、自分がしたことだけ覚えていてという利己的な思いが自分の中にあることを再確認しました。

ワークキャンプを通して、hi-b.a.で受けた恵みを次の世代のhi-b.a.のために奉仕することで還元できたことを、本当に感謝しています。

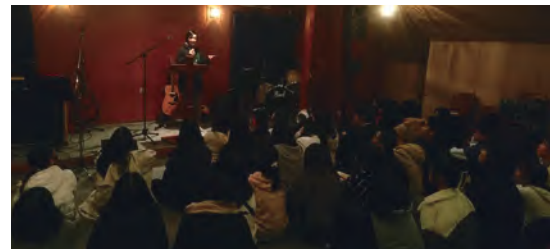
小林滉英(中3)

今回が初めてのキャンプで心配も多く、緊張していましたが、最初はみんなのテンションの高さに驚きましたが、同時にとっても楽しそうと思いました。



キャンプで思ったことはみんながすごいということです。楽器やスポーツ、コミュニケーションなど良い賜物を持っている人がいっぱいいて良いなと思いました。

自分の教会には同世代がいないし、学校にもそういう人はいないけ



ど、キャンプに参加をして同年代の面白くて優しくてカッコいいみなさんに出会えて本当によかったです。

このメンバーに囲まれて賛美とか語り合いとかができて、自分の信仰が強まった気がして、神様に感謝しています。

汀間ホスエ(高2)

初めてのキャンプでとても緊張していましたが、来た時からみんながとても暖かく迎えてくれたので安心して過ごすことができました。



自分は少し前から「敵を愛しなさい」ということが引っかかっている、バイトや学校で悩んでいました。しかし、メッセージの中でイエス様が私たちのために愛してくださっていることを感じ、自分も少しずつでも苦手な人を愛していけるようになりたいと思いました。

ここで多くの信仰の友と出会えたことも本当に嬉しかったです。ありがとうございます。

野田隆斗(高2)

いつものキャンプと違い、奉仕について考えることのできるキャンプでした。その中で奉仕の大切さを学びました。キャンパーとしてではなく、自分も奉仕をしている中で、これまでのスタッフの裏での働きに気づき、尊敬と感謝です。



自分も教会でも、教会外でも、神様のために奉仕をしていきたいと思いました。

アメリカワークキャンプ
2025.7.18(金)~7.29(火)




申込締切間近!!
4月末日必着

詳細は
こちら→



2024年度も ご支援ありがとうございました!

いつもJELAの公益事業をおぼえ、尊いお祈りとご寄付を頂き誠にありがとうございました。2024年度に皆様から頂きました寄付金と実施した活動についてご報告申し上げます。

| 2024年度に頂いた寄付金……合計11,687,671円 | |
|---|---|
|  世界の子ども支援 6,319,223円 <ul style="list-style-type: none"> ・コルカタ貧困地域の児童救済支援 (インド) ・学校建築支援 (カンボジア) ・パナソニック様と協働しソーラーランタン送付 (カンボジア) |  奉仕者育成 228,990円 <ul style="list-style-type: none"> ・次世代リーダー育成のための給付型奨学金支給 (日本) ・ワークキャンプ運営 (インド、アメリカ、日本) ・学校教育助成 (日本) ・教会リトリート「詩編との出会い」運営 (日本・1会場) ※米国シオン・ルーテル教会からの支援を受けて実施 |
|  難民支援 2,579,000円 <ul style="list-style-type: none"> ・難民シェルター運営 (日本・都内2か所) ・難民対象奨学金支給 (日本) | 一般支援金・サポーター寄付金 2,560,458円 |

※その他、能登半島地震被災者支援も実施

JELA事業内容をより充実させ、継続的な支援を可能にするために、2025年も皆様にお祈り・ご寄付によるご支援をよろしくお願いいたします。

支援者一覧 (2024年11月1日～2025年2月28日)

青木孝士/阿部稔子/尼島治/安藤裕三/安藤淑子/
池田哲也/石黒武生/石澤とし子/石森寿幸・京子/
井上秀樹・祐子/岩越優子/太田泰子/大嶺愛持・裸覇武・
十六夜/柿沢純江/片山良明/勝部久子/鐘ヶ江和馬/
亀川榮一/北川勝弘/木原伊都子/キョウ・サカ/京谷信代/
倉知延章/グレイ恵子/河野悦子/小坂敦子/小林勝/
柴田康博/清水恵満子/霜尾閑子/新角房子/深川育子/
高津和子/高良研一/田中美紗子/千葉ちづ子/辻裕子/
東郷優子/中野重夫/中山純郎/西垣親子/西立野園子/
野口久志/芳賀明子/芳賀美江/原口恵子/平岡博・いづみ/
福寛知恵子/瀧田康穂/古川文江/古屋四朗/紅林真由美/
堀秀夫・登紀/堀切富紀子/前川隆一/松岡俊一郎/
光延和賀子/ミヤコ/宮原信孝/三輪田明美/村上貞子/
森田哲史/森村和泰/八坂由貴子/安田やまと/柳沢洋子/
山内恵美/山口敏子/山之内正俊/吉見憲明/浦和ルーテル学院
小中高等学校/恵比寿聖書フォーラム/九州学院みどり幼稚園/
初社教出版販売協会/グレイ合唱団/CRESCENT BAKERY/
神水幼稚園/在日大韓基督教会永和教会/
社会福祉法人ベニヤム/聖書フォーラム委員会/
玉名ルーテル幼稚園/東京メテオラ/東洋英和女学院中高部
宗教委員会/奈多愛育園/ハーベスト・タイム・ミニストリーズ/
バプティスト・グループ ゆあら/バプティスト・グループを学ぶ会Aura*/
三菱UFJ信託銀行/ルーテル学院幼稚園/ルナイツ/JELC大分教会/
JELC蒲田教会/JELC蒲田教会婦人会/JELC神水教会/
JELC玉名教会/JELC天王寺教会教会学校/JELC博多教会/
JELC保谷教会 (以上順不同・敬称略)

ご支援ありがとうございます。匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせください。

編集後記

JELAはこの4月で公益認定から1年を迎えました。2010年代からここまで「一般社団法人」、「一般財団法人」、「公益財団法人」というめまぐるしい変化を役員とともに経験してきたこととなります。ある評議員が「変化が激しい時には長期計画よりも3年から5年の中期計画を重視することが大切」とご助言下さいました。そのお言葉に、JELAはまさに、自らの成長の段階を分析しつつ、堅実かつ実行可能な中期計画を意識し綿密化していく段階に入ったのだ、と感じました。

聖書には「あなたのわざを主にゆだねれば、計らうことは固く立つ」(箴言16:3)という言葉があります。人類全体の大長期計画はすでに緻密に計画されています。与えられた時間を無尽蔵にあるものと考えず、「神がそうさせて下さるならば」という神の前の謙遜をもって、社会や隣人への思いを中期計画に盛り込み、深化してまいります。JELA NEWSでもご紹介している数多くの事業が、短期でも長期でもなく中期でどのように進展していくか、継続的に見守っていただけましたらこの上ない幸いです。(渡辺薫)

JELAの公益事業を継続的に支える JELAサポーターになりませんか?

年1,000円から!
クレジットカードの自動定額決済がご利用いただけます。



詳しくは で検索



JELAはSDGs (持続可能な開発目標)の達成のために取り組んでいます。

寄付控除の対象となります!

JELAへの寄付金は、公益法人への寄付として、税制優遇の対象となります。

【優遇を受けられる税の種類】

- ・ 所得税(所得控除)
- ・ 個人住民税(お住まいの自治体の制度によります)

また、法人による寄付についても、通常よりも大きい損金算入限度額が認められます。

寄付控除に関する詳細は、JELAのウェブサイトをご参照ください。

